



国立国際医療研究センター国際感染症センター(編集)

『グローバル感染症マニュアル』

[評者] 川崎市立井田病院総合診療科 宇井睦人

プライマリ・ケアに携わる医師が、海外渡航に関
する疾患や予防を学ぼうとしなくても何とかなった
時代は、すでに終焉したと言える。

これまで渡航関連の感染症は一部の専門医の仕事
であると考えられてきた向きもあるが、日本人年間
渡航者が1,800万人を超える現在、日常診療でも知
識がないでは済まされない場面を多く経験する。本
書はプライマリ・ケアを担う医師がつまづきやすい
場面に寄り添うように、明快なサポートをしてくれ
る良き伴侶となる一冊である。

『I章 グローバル感染症診療の実践』では、発
熱、下痢、皮疹、呼吸器症状、好酸球増多、STD、
動物咬傷、ウイルス性出血熱など、プライマリ・ケ
アの現場で遭遇しやすい症候・病態に関するエッ
セン스가、表を中心に大変読みやすくまとめられて
いる。例えば『発熱』の項では、マラリア、デング
熱、腸チフス・パラチフス、レプトスピラ症、リ
ケッチア症、A型肝炎、E型肝炎と頻度が高い疾患
が必要十分な分量で解説されている。特筆すべきは
各項目の冒頭にまとめている「フローチャート」で
あり、「海外からの発熱患者に対するアプローチ」
「好酸球増多症をみた際のフローチャート」など、
診断から治療までの流れが一目瞭然である。見やす
くまとめられた多数のフローチャートは本書に特徴
的な魅力的な個性であり、臨床現場でのまさに「か
ゆいところに手が届く」情報を貴重な一覧性をもっ
て教えてくれる。

『II章 トラベルクリニックマニュアル』は主に
渡航前相談に関する章である。『渡航先別の予防・
対策』ではアジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、
オセアニア、ラテンアメリカに関する総論的な情報
を提供しているのに加え、『相談の多い有名な渡航
地・観光地』の項にマチュピチュ、アンコールワット、
北インドなど場所別の記載があることも興味深い。

『渡航者へのワクチン接種』の項目では、流行地
域に渡航する際に推奨または義務づけられているワ
クチンから始まり、小児を含めた定期・任意接種ワ
クチンについての各論的解説が展開される。鮮やか
なカラー地図によりマラリア・狂犬病など15の感
染症について色別で危険度が示されている。巻頭の



『グローバル感染症流行地・リスク地マップ集』を
参照しながら読むと、より実践的であろう。続く
『マラリア予防内服』『防蚊』『高山病・旅行者下痢
症の予防・対策』『妊婦・授乳婦の渡航』などの項
でも、プライマリ・ケアを担う医師として実際に相
談されることの多い知識が目白押しである。

『III章 グローバル感染症診療に役立つ！情報の
まとめ』も、類書にない有用なデータベースとなっ
ている。『役立つウェブサイトのまとめ』では
WHOやCDC(米国疾病予防管理センター)などの
信頼性の高いウェブサイトが集められており、本書
を超える内容についても丁寧にサポートされている
ことに執筆者の方々の配慮を感じる。『特殊な感
染症が疑われる場合の検査機関一覧』では疑われる感
染症別に検査機関が一覧化されており、これを元に
インターネット検索をかければ、欲しい情報に最速
でたどり着くことができるであろう。

トラベルクリニックの大半の業務は、プライマ
リ・ケアの一環である。本書はこのグローバル時代
を担う医師の座右の書としてぜひ手元に置いておき
たい良書であり、「替えのきかない一冊」であるこ
とを強調し書評とした。

● B5 / 頁 254 / 定価：本体 5,000 円 + 税

[ISBN : 978-4-524-26574-9] 南江堂刊